

(様式第1号)

研究No.
(記載不要)

19 - デ学 - 4

平成 19 年度配分 研究成果の概要

研究名	新しい映像芸術の開拓とその文化的役割の考察				
配分を受けた 特別研究費	デザイン学部長 特別研究費 1,900 千円				
研究者氏名 (代表者)	学 部 名 (研究科名)	学 科 名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	メディア造形学 科	准教授	的 場 ひろし	映像システム、映像 表現の研究
共 同 研 究 者	デザイン学部	メディア造形学 科	教授	古田祐司	映像の理論、表現の 研究
発 表 の 方 法 (予 定 で 可)	1 紀 要			号 数	第 号 (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名: (1)ACM SIGGRAPH (2)その他国内での論文投稿等を検討中			発表日 (発表 予定日)	(1)平成 19 年 8 月 5 日
	3 その他 発表の方法:デザイン学部情報交換会			発表日 (発表 予定日)	平成 19 年 12 月 20 日

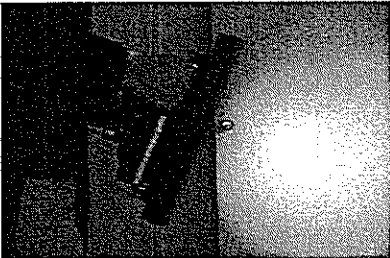
注:配分を受けた翌年度の 6 月末までに提出

(研究の目的等)

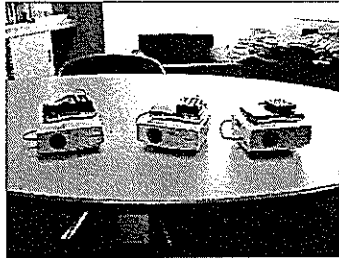
現代においては、あらゆるメディアの中で、映像メディアの果たす社会的、文化的役割は最も大きい。TV 放送もアナログからデジタルに変わりつつあり、映像芸術の持つポテンシャルについて、改めて検討すべき時期にきている。本学教員の芸術、技術のスキルを活かして、本学より、社会に対して新しい映像芸術の提案を行うことは、大きな意義を持つと考えられる。「人との」「人と情報」「人と空間」の関係性に新たな視点を加えることが、新しい映像芸術形態を研究する上での大きな目標となる。

(研究の実施方法等)

- ・ 携帯電話に着目し、携帯電話向けの最新の映像表示技術を調査
- ・ 携帯電話の将来像を先取りする試作システムの製作
- ・ 上記試作システム上に表示するための映像コンテンツの制作
- ・ 上記システム及び上記コンテンツを用いたパフォーマンス作品の制作
- ・ 国際的に権威ある海外の学会 (ACM SIGGRAPH2007 Art Gallery) に投稿、入選し、作品を実演発表



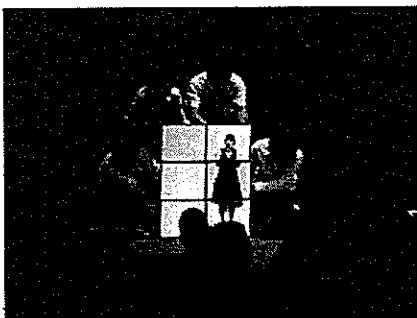
LCD を用いた試作システム



プロジェクタを用いた試作システム

(得られた成果等)

ACM SIGGRAPH は米国の学会の一つで、CG を中心に、新しい映像芸術表現を発表する場として、国際的に最も権威があると認められている。本研究成果は、2007 年 8 月に San Diego(会場はUCSD)で開催された ACM SIGGRAPH2007 に入選し、実演発表を行った。多くの参加者、研究者から評価された。本発表の記録映像は、国際的に評価された新しい映像芸術形態の事例として、各種教育の機会に活用している。デザイン学部情報交換会をはじめ、学内の各種授業、非常勤講師(千葉大学)あるいはゲスト講師(京都工芸繊維大学)としての学外での授業、静岡県教育研究会における教育活動に活用した。



SIGGRAPH2007 での発表(1)



SIGGRAPH2007 での発表(2)